
アース・レフュジーズ

てんじゅ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アース・レフュジーズ

【Nコード】

N9953Y

【作者名】

てんじゅ

【あらすじ】

20xx年、人類は遂に宇宙ステーションへの移住に成功した。人々は続々と宇宙へ移住し、国もそれを指示した。いつしか地球に残ることは「悪」であるという風潮になり始める。しかし、それでも地球に残ろうとする人々がいた。人々は彼らを罵り、政府も地球に残る人々への保護や干渉を止める。

こうして地球は無法地帯となり、宇宙へ移住した人々から嫌悪されるようになった。

地球に残った人々は各地で町を作りコミュニティーを形成した。
これはそんな町に住む一人の男の話である。

セイギノミカタ - 1

20xx年、人類は遂に宇宙ステーションへの移住に成功した。人々は続々と宇宙へ移住し、国もそれを指示した。

いつしか地球に残ることは「悪」であるという風潮になり始める。しかし、それでも地球に残ろうとする人々がいた。

人々は彼らを罵り、政府も地球に残る人々への保護や干渉を止める。

こうして地球は無法地帯となり、宇宙へ移住した人々から嫌悪されるようになった。

地球に残った人々は各地で町を作りコミュニティを形成した。

これはそんな町に住む一人の男の話である。

少女は肩から提げていた大きなボストンバックを、地面に勢いよくおいた。

そして額の汗をぬぐうと、自分の目の前にある町の看板をみる。

「座頭横丁……、やっとついた」

そんな風につぶやくと、またボストンバックを肩に提げなおした。

少女は白いワンピースを身につけ、頭には麦わら帽子を被っている。

この夏の暑い気候にはぴったりの服装だ。

少女は足取り軽く、看板のほうへ歩いてゆく。

そして看板をくぐるうとしたとき、ふと声をかけられた。

「おや、この町の人じゃないね。宇宙の人かい？」

声が出た方向を見ると、そこには女がいた。

女はポンチヨを着て、ジーンズをはいている。

そしてウッドチェアに座りながら肩に杖を立てかけ、サングラスを駆けている。

相手が自分より年上だと見た少女は、出来るだけ丁寧な言葉を選ぶ。

「はい、宇宙から着ました」

それを聞いた女は、笑いながらかけているサングラスをいじる。

「ならこの町に入るのはよしたほうがいい、きつとろくなことになる」

少女は長話になると思ったのか、その場にポストンバックを落としました。

「人を探しているんです」

女はそれを聞くと鼻で笑い返した。

「週に3回はお嬢ちゃんと同じようなのがくるが、探し人がいたことはないよ」

少女は少し頭にきたのか、女を睨む。

「でも絶対この町にいます」

その自信のほどに興味を持ったのか、女は身を乗り出した。

「ほう、それなら名前を言ってごらんよ。小さい町だ、大体のやつの名前は知っている」

「猿」

少女の即答振りと少女の口からでた言葉。

どちらに驚いたかは定かではないが、女の表情が変わる。

「……ここは動物園じゃないんだ、ほかをあたりな」

「言い方が悪かったですか？」猿”の呼称で呼ばれている男の人の探しに来ました」

追い討ちをかけるように少女が言う。

「たしかにこの町には猿と呼ばれている男がいる。だがお嬢ちゃん、どこでそれを知った？」

女がそう聞くと、少女は困ったような顔をした。

「私の名前はアリス・アキヤマです。父の名前はダイゴロウ・アキヤマです。父は名前を出せば良いといっていました」

それを聞いた瞬間、女は杖を持って立ち上がった。

「イチ」

「はい？」

少女に背を向けながら女が言った言葉を少女・アリスが聞き返す。

「私の名前だよ、名乗られて名乗り返さないのは失礼だろう？」

女は顔だけをアリスのほうに向けてニヤリと笑うと、また歩き出す。

「着いてきな、猿のところまで案内しよう」

それを聞いたアリスはボストンバックを肩にかけなおした。

「はいっ！」

大声で答えるとアリスは笑顔で後を追いかけ始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9953y/>

アース・レフュジーズ

2011年11月30日00時50分発行